

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 名張青峰高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	新時代をたくましく生き抜く未来人を育てる学校 [育む3つの力] ○ 未来を拓く力 自己実現・進路実現を図ることができる力の育成 ○ グローバル化社会で活躍する力 グローバルな視点で意思決定・意思疎通を行い、情報を利活用できる力の育成 ○ 人とつながる力 相互に理解し合えるコミュニケーション力、社会に参画できる力の育成	
	育みたい 児童生徒像	学力と社会への参画力をともにそなえ、新時代をたくましく生き抜く生徒
(2)	ありたい 教職員像	生徒をあたたく受容し支える「丁寧な教育」と、生徒に課題を示して壁を乗り越えさせる「鍛える教育」の両面を、場面や役割に応じた的確に展開し、「育みたい生徒像」の実現を図る教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 名張青峰高校に進学した理由（入学後アンケートより） 卒業後の進路を考えて(33.3%)，本人の成績(27.4%)，高校生活入門講座（15.9%）</p> <p><保護者> 名張青峰高校に期待すること（夏の保護者アンケートより） 学力の向上(63%)，希望進路の実現(59.8%)，授業内容の充実（44.2%）</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><中学校> 多様な進路が選べる学校 文武両道で頑張る学校 ICT教育の先進校</p> <p><地域> 名張市内唯一の普通科高校としての学力や進路の保障。魅力のある高校としての情報発信（評価委員会等より）</p>	<p><中学校> 基礎学力等の学習指導 基本的な生活習慣等の生徒指導</p> <p><地域> 学校の活動への理解 地域における生徒の見守り 生徒が活躍する場の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○高校生活入門講座等の場で、中学校を卒業後に高校で活躍する姿を中学生等に見せていく。</p> <p>○中学生や保護者に、「普通科・文理探究コース」と「普通科」での「学び」の違いを伝えていく。また、進学状況についても「普通科・文理探究コース」と「普通科」の違いがわかるよう工夫する。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○ 生徒の進路希望の実現に向けてきめ細やかな進路指導を行っているが、新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、生徒一人ひとりの学力を向上させるための深い学びを実現する質の高い授業の構築をすべての教育活動で行う必要がある。</p> <p>○ 学校全体として人権・同和教育や生徒指導の立場からも生徒の学力・進路保障の取組を行っているが、グローバル社会で必要とされる人権感覚の育成や学習習慣も含めた生活習慣の確立をより効果的に図る必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○ 入学定員を充足するために、地元の中学生から選ばれ続ける学校として、特色や魅力をより顕在化させ発信する必要がある。</p> <p>○ 従来からの慣行に囚われることなく、教育課程や年間行事の見直し、部活動や各種委員会の精選を大胆に進め、教職員のリソースを必要な個所に集中させる必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未来を拓く力の育成 キャリア教育の充実と生徒の進路に係る様々な情報の集積・活用により、四年制大学・短期大学・専門学校・就職など幅広い進路希望を実現する。 ○ グローバル化社会で活躍する力の養成 伝統あるグローバル教育と充実した ICT 環境を基に、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成するための授業改善を推進する。 ○ 人とつながる力の陶冶 学習活動と部活動の両立をはじめ、健全な学校生活を送ることができるよう基本的な生活習慣を確立させるとともに、助け合い、励まし合い、高め合う集団づくりを通して命を大切にす心や思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選ばれ続ける学校づくりの推進 中学生をはじめ地域から積極的に選ばれ続ける学校となるよう、学校の特色化を進め魅力のある教育内容を創造する。また、積極的な情報発信、地域の関係機関との連携・協力を推進し、地域に対する学校のブランド力の強化を進める。 ○ 生徒のための教職員組織づくり 教職員が生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、目的・目標とそれらを達成するための手段を共有して主体的に実践できる教職員組織づくりを進めるとともに、安全・安心で心身ともに健康的な生活を送ることのできる職場づくりを行う。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○ 未来を拓く力の育成	[活動指標] ○ 平日平均学習時間 120 分以上 ○ 授業時間の確保 1 単位あたり 30 単位時間以上 [成果指標] ○ 学習到達度 B 段階以上 (2 年次 11 月時点) 100 人以上 ○ 国公立大学合格者数 25 人以上	1 年平均 : 101 分 2 年平均 : 86.6 分 3 年平均 : 130 分 (1 学期末) 平均 29 単位時間 (休校中オンライン含) 83 人 (現在受験中)	
○ グローバル化社会で活躍する力の育成	[活動指標] ○ 教職員間の授業見学 年 2 回以上 (同教科 1 回以上、他教科 1 回以上) ○ 授業の改善に資する研修会への参加 一人 1 回以上 [成果指標] ○ 授業で 3 側面 (知識技能、思考力判断力表現力、主体的態度) の向上を感じた生徒割合 80% 以上 ○ 協働学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 100%	2 回実施 コロナ禍により未達成 87.6% 100%	
○ 人とつながる力の育成	[活動指標] ○ 人とつながる力を育む講演会・研修会の開催 生徒年間 3 回以上、教職員年間 3 回以上 [成果指標] ○ 社会性のある行動や思いやりのある行動を心掛ける生徒割合 90% 以上 ○ 人権が尊重されていると感じている生徒割合 90% 以上	3 回実施 95% 89.5%	

改善課題

- 生徒の学習時間を把握し、家庭での学習習慣の定着を図る。
- 生徒一人ひとりの学力を向上させるために、深い学びを実現する質の高い授業の構築が急務である。
- 高い人権感覚の育成や学習習慣も含めた生活習慣の確立をより効果的に図る必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○選ばれ続ける学校づくりの推進	[活動指標] ○ 高校生活入門講座等への申込者数 500名以上 ○ 多様な方法による情報発信 30件以上	511名 42件(新聞等の報道)	
	[成果指標] ○ 三重県立高等学校進学希望状況(12月)の本校希望者数 240名以上	245名	
○生徒のための教職員組織づくり	[活動指標] ○ コンプライアンスミーティング 年2回以上	2回	
	○ 設定した日の定時に退校できた職員の割合 80%以上	95.7%	
	○ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100%	100%	
	○ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 80%以上	84.7%	
	[成果指標] ○ 1人当たりの月平均時間外労働 15時間以下	17.7時間	
	○ 年360時間を超える時間外労働者数 0人	3人	
	○ 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人	17人	
	○ 1人当たりの年間休暇取得日数 20日以上	18.0日	

改善課題

- 選ばれ続ける学校となるために、中学校・地域への特色や魅力の発信方法等を工夫する必要がある。特に、オンライン教育の充実をより一層強化する必要がある。
- 年間行事や部活動、各種委員会等の精選・改革を進め、教職員の働き方改革を学校全体の目標として取り組む必要がある

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の進学意識を高めるためにも、卒業生の話を聞くなどの取り組みが必要である。 ○ICT教育の優位性は低くなっていくので、一人一台端末の多様な活用やオンライン教育の充実などを積極的に伝えていく必要がある。 ○高校生活入門講座や中高オンライン交流会で高校生が主体となって発信していく。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの進路を実現するため、組織的な進路指導の構築を図る。 ○これまでのグローバル教育やICT教育の取組をベースに新学習指導要領を意識した授業構築を学校全体で取り組む。 ○生徒指導や人権教育の取組を充実させ、これまでの成果を継続するとともに、明らかになった課題に取り組むことで、人とつながる力をさらに高めていく。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍に対応した学校の魅力を発信する必要がある。 ○国や県の動向に注視するとともに、個々の教職員の勤務時間等についての意識を高める。